

## タイ地域研究のための基本文献

### <辞典・事典・年鑑>

○富田竹二郎編『[タイ日大辞典](#)』めこん、1997年。

本格的なタイ・日本語辞典である。執筆者の富田先生が書かれたタイに関する豊富な知識に裏打ちされた例文が大変勉強になる。

○日本タイ学会編『[タイ事典](#)』めこん、2009年。

タイに関する重要事項を網羅した画期的な事典。手元に置いて、ことあるごとに参照したい。

○桃木他編『[新版 東南アジアを知る事典](#)』平凡社、2008年。

タイをはじめ東南アジア全体に関する重要事項を網羅した画期的な事典。

○京都大学東南アジア研究センター編『[事典 東南アジア：風土・生態・環境](#)』弘文堂、1997年。

タイをはじめ東南アジアの風土・生態・環境を網羅的に、かつ、個性的に解説した事典。

○アジア経済研究所『[アジア動向年報](#)』日本貿易振興機構・アジア経済研究所、各年版。

★所蔵状況は、次の双方の版を参照：[市販版](#)、[アジア経済研究所発行版](#)

タイをはじめアジア各地の1年の政治経済動向をコンパクトにまとめた年報。毎年発行される。

### <雑誌類>

タイに関する論文が多数収録されており、早いうちに創刊号から最新号まで一度全てのタイトルや要約を見ておくことをすすめる。興味深い論文との出会いがあるかもしれない。

『[東南アジア 歴史と文化](#)』（東南アジア学会）

『[東南アジア研究](#)』（京都大学東南アジア研究所）

『[アジア経済](#)』（日本貿易振興機構・アジア経済研究所）

『[アジア研究](#)』（アジア政経学会）

『[タイ研究](#)』（日本タイ学会）

月刊『[ジェットロセンサー](#)』（日本貿易振興機構・JETRO）

### <入門・概説書>

○綾部恒雄・林行夫『[タイを知るための60章](#)』明石書店、2003年。

タイの歴史、文化、社会、政治、経済が網羅的かつコンパクトにまとめられた貴重な一冊。

○綾部恒雄・石井米雄編『[もっと知りたいタイ（第2版）](#)』弘文堂、1995年。

★図書館では [初版（1982年刊行）](#) も所蔵

タイの歴史、文化、社会、政治、経済を専門家が丁寧に解説した一冊。

- 石井米雄『[道は、ひらける：タイ研究の五〇年](#)』めこん、2003年。  
東京外国語大学タイ語専攻で学ばれた、タイ研究の泰斗石井米雄先生がタイ語との出会いやタイでの経験をわかりやすく解説された自伝。
- 石井米雄『[タイ仏教入門](#)』めこん、1991年。  
タイにおける上座仏教の歴史と現状を丁寧に解説された一冊。
- ＜研究書＞
- 石井米雄『[タイ近世史研究序説](#)』岩波書店、1999年。  
港市国家アユタヤ論などタイ歴史研究の第一人者であった石井米雄先生が執筆された論文集。
- 大泉啓一郎『[老いてゆくアジア：繁栄の構図が変わるとき](#)』中公新書、2007年。  
経済発展の中で、急速に少子高齢化の進むタイの現実が丁寧に解説されている。
- 大阪市立大学経済研究所監修『[アジアの大都市\[1\] バンコク](#)』日本評論社、1998年。  
バンコクの歴史的形成過程と現代的課題を包括的に解説した論文集。
- 柿崎一郎『[王国の鉄路—タイ鉄道の歴史](#)』京都大学出版会、2010年。  
19世紀後半から現在に至るタイの鉄道の歴史がまとめられている。
- 小泉順子『[歴史叙述とナショナリズム：タイ近代史批判序説](#)』東京大学出版会、2006年。  
『王様と私』のモデルとなったアンナ・レオノーエンスに関わる歴史的評価の多様性を示した論考をはじめ、タイの歴史を通じて歴史叙述の深さを味わうことができる。
- 末廣昭『[タイ—開発と民主主義](#)』岩波書店（新書）、1993年。  
タイ経済研究の第一人者である筆者がタイの経済開発の歴史とクーデタを繰り返すタイ式民主主義の歴史を丁寧にわかりやすくまとめている。
- 末廣昭『[タイ：中進国の模索](#)』岩波新書、2009年。  
2000年代グローバル化の中のタイ経済の特徴とタクシン元首相の登場とその後のタイ政治の対立を詳しく解説している。
- 末廣昭『[キャッチアップ型工業化論：アジア経済の軌跡と展望](#)』名古屋大学出版会、2000年。  
タイをはじめとするアジアの工業化の特徴をキャッチアップ工業化論としてまとめあげた、タイ地域研究者必読の書。
- 末廣昭『[ファミリービジネス論：後発工業化の担い手](#)』名古屋大学出版会、2006年。  
タイをはじめとする東南アジアの工業化の担い手の多くが華僑系実業家である。その華僑系実業家のビジネスの特徴をファミリービジネスという視点から分析したタイ研究者必読の書。
- 末廣昭・南原真『[タイの財閥：ファミリービジネスと経営改革](#)』同文館、1991年。  
タイ経済を企業家という視点から分析した画期的研究書。タイ経済の奥深さを感じることのできる一冊。
- タック・チャルムティアラナ『[タイ：独裁的温情主義の政治](#)』（玉田芳史・訳）勁草書

房、1989年。

1950年代から1960年代のタイ政治をサリット陸軍元帥の勢力拡大を軸に分析した。

○玉田芳史『[民主化の虚像と実像：タイ現代政治変動のメカニズム](#)』京都大学学術出版会、2003年。

1990年代から2000年代のタイ政治の民主化とその危うさを分析した実証的分析の成果。

○玉田芳史・船津鶴代編『[タイ政治行政の変革：1991-2006年](#)』アジア経済研究所、2008年。

1990年代から2000年代までのタイの政治行政改革の実像について、特にタクシン政権を中心に分析した貴重な論文集。

○玉田芳史・星川圭介・船津鶴代編『[タイ 2011年大洪水：その記録と教訓](#)』アジア経済研究所、2013年。

2011年タイを襲った大洪水の原因、過程と影響を学際的に分析した。

○トンチャイ・ウィニツチャクン『[地図がつくったタイ](#)』（石井米雄・訳）明石書店、2003年。

19世紀後半インドシナ半島に英仏が植民地を拡大する中で、当時のシャムが、領土を割譲する中で、どのように周辺地域を自国領に取り込んでいったかを深く分析したタイ歴史学必読書。

○ヘンリー・ホームズ、スチャーター『[タイ人と働く：ヒエラルキー的社会と気配りの世界](#)』（末廣昭・訳・解説）めこん、2000年。

タイ人の人間関係や社会意識をタイ人ともに働きながら観察し、タイの社会文化に深く分析した。

(2013年12月 宮田敏之)